



## 100歳まで腹話術を続けたい

北島洋子さん

デイサービスや認知症カフェなどで、腹話術を披露している市内在住の北島洋子さん(86歳)。保育士だった経験を生かし、多くの人に笑顔をお届けするため、さまざまな施設で活動しています。

30歳の時、娘らと一緒に人形劇団むすび座を観に行き、初めて腹話術に出会った北島さん。「むすび座の司会者が腹話術をしている姿を見て、面白そうでした」ともやってみたくて思っていました。50歳の時、腹話術の講座が開催されることを知り、迷わず受講。2回のみ開催でしたが、そこに集まった受講生約20人と名古屋腹話術クラブを立ち上げ、腹話術を学び続けることを決めます。

「人生笑顔が一番」をモットーに、市内保育園の誕生日会やデイサービス、認知症カフェなどで腹話術を披露し、多くの人を笑顔にしました。北島さんの腹話術は、県外の施設から声が掛かるほど。「デイサービスで披露した時に、初めは全く興味がなさそうにしていた男性が、次の公演では最前列に座って見に来てうれしかったです」とやりがいを感じています。

日本昔話や落語、過去に自分で作っ

た劇の台本などを参考に話す内容を考えていますが「小学生に腹話術を披露した時に、『浦島太郎』を知らないことも多くて驚きました。日本昔話に出てくる動物などを現代風にアレンジして、小学生にも笑ってもらえるよう工夫しています」と観客の年齢層に合わせて内容を変えています。6歳の男の子の人形(写真左)と90歳のおばあさんの人形(写真右)を使うことが多く、おばあさんの人形は、20年前に北島さんをイメージして作ったものです。

「高齢者が元気に過ごすための秘訣として、キョウイク(今日、行くところがある)とキョウヨウ(今日、用がある)という言葉があります。私の腹話術がそのような存在になるとうれしい」と話し、「会場に来ているお客さんに話し掛けたら、質問をしたりして、みんなを巻き込んで、一緒にその場を楽しむことを心掛けています」と笑顔を見せます。

今後は「100歳まで腹話術を披露していきたい」と、より多くの人を笑顔にするために活動を続けます。



▲腹話術を披露する北島さん

cover

1/25、市広報大使に、市出身の俳優・清水くるみさんとギタリストで作曲家・山下俊輔さんが就任しました。今号の14頁では、二人のプロフィールや就任式の様子などを紹介していますので、ぜひご覧ください。

